

厚みの異なる2種類の石灰化病変モデルに対する、各種スコアリングバルーンの拡張効果

【目的】高度石灰化病変に良好なステント留置・拡張する際には複数個所に crack 形成を目的とした前拡張が必要となることが多い。スコアリングバルーンによって crack を形成することが有効な症例も多く、石灰の厚みの違いによる各種スコアリングバルーンの特徴を検討した報告は少ない。【方法】全周性石灰化病変に見立て厚みを変えた石膏モデルを複数個作成し、各種スコアリングバルーン LacrosseNSE α (NSE)および Flextone Cutting Balloon(CB)、Scoreflex を、non-compliant balloon である Powered Lacrosse (PL)を対照として rated balloon pressure (RBP)まで順次拡張。石膏に crack が形成された段階から RBP までの拡張効果を外面から検討。crack 数、形状を観察した。また、OCT を用いて石膏モデルの内側に形成された crack の形状を比較検討した。【結果】PL に比し、NSE・CB では外面からも縦方向の crack が複数個所を認められたが、厚みの増した石膏モデルでは、内側の crack を含め、モデルによってばらつきを認めた。一方、Scoreflex は厚みが異なっても縦方向の crack を1か所に認め、内側にはばらつきがあった。【総括】スコアリングバルーンの種類によって、全周性石灰化病変に対する拡張効果が異なる可能性が示唆された。石灰化の厚みによってスコアリングバルーンを選択する必要があると思われた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号